

おかえりなさいませ
ご主人様

お風呂にしますか？
お食事になさいますか？

……ああ
はいはい、私ですよ
知っていました



くく…まったく
良い拾い物をした

幽霊だかなんだか知らぬが
これほど抱き心地のよい身体は
そうそう手に入らんからな

お褒めにあずかり
光栄です ご主人様

たぷっ♡
たぷっ♡

ズン♡
ズン♡

ズン♡
ズン♡

ズン♡
ズン♡



まったく…主人が帰ってきて
早々シモの世話させられるなんて
メイドも楽じゃないわね

一生懸命腰振っちゃって…
私は幽霊だからこんなので
感じたりしないのに

『主人の性欲処理は
メイドの義務』
だからしょうがないけど

はあ……
早く終わらせて
欲しいわね…



え……？
なに……？

いまの感覚は……？

慣らしは
もう終いだ

今日はとことん
お主の性感を
開発してやるとしよう

いい加減
そのお澄まし顔も
見飽きたでな

あ、え……？
あの、ちよつと待つ——

ズパッ……

ズチャ

ズチャ

ズ



あ

あ

奥が
弱点とはな

私の経験上
ここが弱い女は
自分の手や短小では届かぬ故
自分のことを不感症だと
思いがちだが――

あ

あ

あ

一度開発してやれば
その快感に夢中になり
日がな性交のことばかり
考える色狂いになる

つまりお主には
色狂いの才がある
というわけだ

はっ、あっ……♡
なに、これっ……
こんなの知らなっ……♡

あ

あ

あ

色狂いなんて...っ
そんなわけ...っ

でも、この感じ...♡

奥思いつきり突かれると
あたま真っ白になってっ♡
何も考えられなくなるっ♡







は、ああ……っ♡

身体の内側で……
熱いのが弾けて……

あゝ

ぐわん

くく……
達したばかり
だというのに
物欲しそうな顔を
しておって

ズンズン

ズンズン

ミロロ

続きは
ベッドの上でだ
今夜は一晩中
付き合ってもらおうでな

これ……まずい……
この感覚……
癖になりそう……♡

あゝ

あゝ

ぐわん

あゝ

ぐわん

こんなことを
一晩中なんて……
そんなことされたら私は……
……でも♡

かしこ…まりました♡

『主人に身も心も
捧げるのは従者として
当然のこと』ですから♡

どうか私の身体で
貯め込んだ欲望を
好きなだけ
吐き出してくださいませ♡

ご主人…様…♡























